

2024. 12. 19 幼小交流 1年生の「しぜん わくわく マーケット」

昨日は、年長児が義務教育学校前期課程へ行き、1年生と交流をしました。

テーマは「しぜん わくわく マーケット」。今年度1年生は社会創生プロジェクトの中で自分なりに身の回りの自然と向き合い、探究を進めています。

そこで知ったこと、感じたこと、面白かったことを幼稚園児に伝えたい！一緒に遊びたい！ということで招待をしてくれました。

最初は小グループで簡単な自己紹介。

名前をお互いに伝え合う姿が見られます。年長児は少し緊張気味。そんな様子を見てか「ねえ、好きな食べ物は何か？」と質問する1年生。「じゃんけんする？」と1年生なりにアプローチの仕方を考えていました。そして会話を重ねていくうちに少しずつ年長児も笑顔がこぼれていきます。

「しぜん わくわく マーケット」が始まると、年長児は一斉に自分の興味をもったブースへ行きます。

ブースはどんぐり、木、カマキリ、ダンゴムシ、アリ、クモ、落ち葉、花、ねこ、花などあり、その中でも2〜3人でグループが細分化されていて、10種類以上ブースが点在していました。

木のグループではクイズが出されてました。

「樹液は何色があるでしょう？ヒント3個色があります。①あか ②オレンジ ③きいろ ④ちゃいろ」

「あか、オレンジ、きいろの中でどれがいちばんすっぱいでしょうか？」

「樹液は何年長生きできるでしょう？」

「木はおいしいでしょう？」…ひたすら木と樹液に関するクイズです。そして結構難しい。

その横では、自らが木になってクイズを出しているグループもありました。

ダンゴムシを折り紙で一緒に作ったり、木の芽について一緒に考えたり、観察したりするブース。

「ダンゴムシは溺れないんだよ！だってエビやカニの仲間だからね！」と1年生から聞いて驚く年長さん。

年長児にとってもいつも身近にいたダンゴムシについて、また新たな発見、気づきがあります。

ドングリ迷路で遊んだり、どんぐりマラカスを一緒に作ったりと体験できるブース。

自分たちが育てている幼虫を触らせてくれたり、くじ引きをしたりと内容も関わり方も各ブースでいろいろでした。

そして、どのブースも自分なりの自然への探究の足跡が見え、子供たちなりに知ったことや感動したことを表現し、身の回りの自然について知識として獲得した自信や喜びがあふれながら、年長児らと関わっている姿が印象的でした。また年長児がつぶやいたことに、「え？そうなんだ！」と新たに気付く1年生の姿もありました。

義務教育学校では、『『好き』への解像度をあげる』というキーワードがあります。

幼児期で出会い、自分たちなりに興味をもったり、好きになったりした自然を、自分たちなりに学習を通してその解像度を上げていく。より専門的に、焦点を絞りながら、その世界を味わっていく。その中でさらに未知なる世界が見えてくる。さらに面白そうだという予感を感じる。

それらの思いが各ブースの中で、熱量とともに年長児に伝わっていく。他者に伝えることで、1年生にとっても新たな見方と出会いや気づきにつながり、年長児にとっても新たな出会いへとつながっていく。

幼稚園でも、義務教育学校でも一人一人の好きを大切にしながら、それをベースに人と人の関わりをデザインする。そのような幼小交流だったと感じました。

